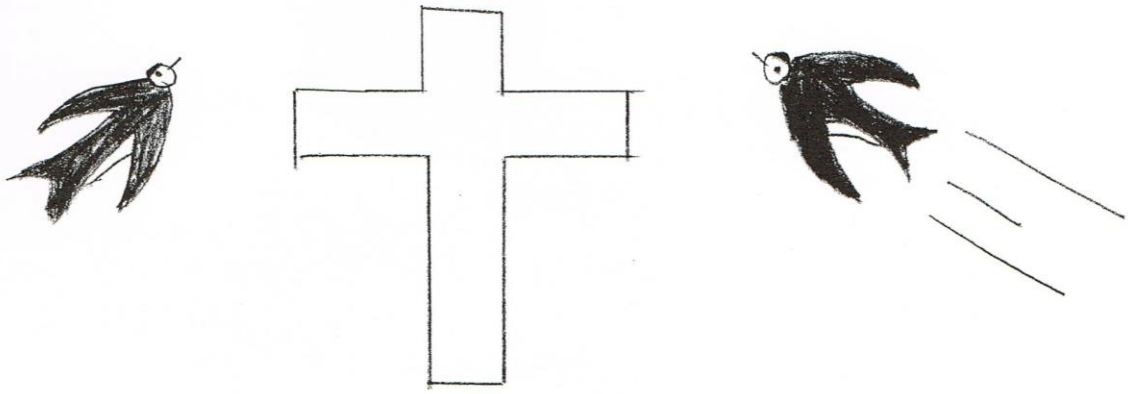
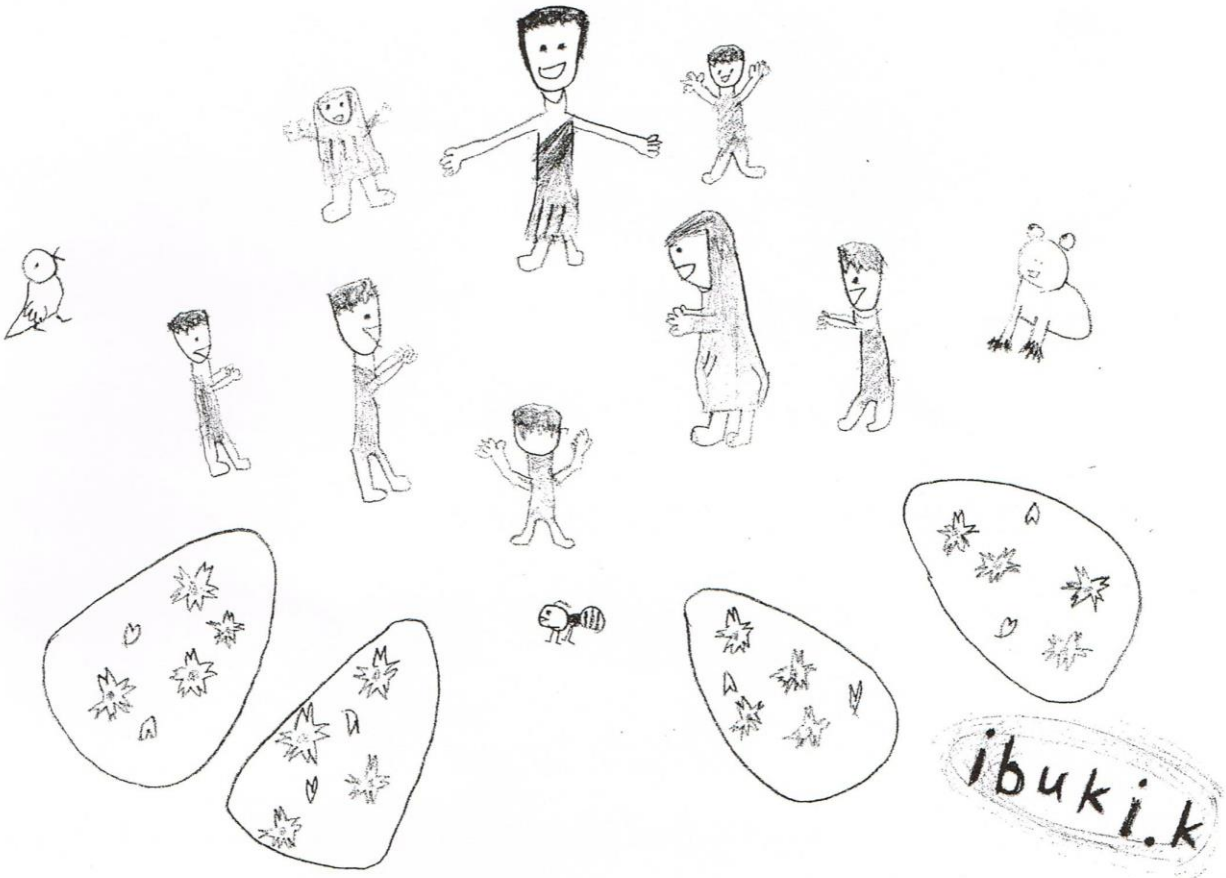
すみよし





２０１５　イースター号　第１９５号

聖　句

あなたのパンを

水に浮かべて流すがよい

月日がたってから、それを見いだすだろう

コヘレトの言葉
11 章 1 節
選：J. P. S.

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪イースター：　過去、現在、そして未来≫

コンスルタ神父

主は復活された！　主は生きておられる！　ご復活おめでとうございます！！

イースターの日曜日はこの上なく大切です。このお祝いはあまりにも偉大であるため、過去、未来、そして現在にも関わってきます。私たちは信仰の内に過去を思い、希望の内に未来を見つめ、そして現在においては愛の人生を生きることを求められます。

私たちには**三つのステップ**があります。一つ目は**イエスの死からの復活という過去を思うこと**。それは私たちが復活の目撃者ではないため、この真実を主が主の教会に伝えられた神の啓示の威光のうちに受け入れるということです。主の復活は出来事としては前例のない特異なことです。このような完全な変容といった形で墓所から生き返った者は誰もいません。主の復活は人類の歴史上初めての真の復活だったのです。聖パウロはこのご復活の出来事を以下のようにとらえています。「もし死からの復活がなければ、キリストはよみがえられなかった。そしてもしキリストがよみがえられていなければ、あなたたちの信仰はむなしく、あなたたちはまだ罪のなかにいる。したがってキリストにおいて死んだ人々も滅びるであろう」（コリント 1　15 章 17-18）この言葉はキリストの復活がなければ、キリスト教は作り話であり、私たちは時を無駄に過ごすという意味でもあります。ご復活の主日は何をおいても私たちにとって祝日です。ご復活がなければ過去の信仰は崩れ去り、未来への喜びあふれる希望は悲しみとなり、そして現在でのお祝いはむなしいものとなるのです。

次のステップです。**私たちは希望のうちに未来を見つめます**。この希望は私たちがキリストのように死から永遠の命によみがえるという信念です。おそらく私たちはキリストの復活の方が私たち自身のそれよりも受け入れやすいのではないでしょうか。結局のところキリストは神なる父の子であり、私たちの救いのためにこの地上に来られた方なのです。キリストの死によって復活が導かれたのは自然に思えます。普通の人間である私たちとは違う状況です。にもかかわらずキリストの復活を信じることは私たち自身の復活を信じることにつながるのです。キリストの復活は、多くの人々がキリストの後に続くであろうということから「初穂」（コリント 1、15 章 23）に例えられています。イースターのお祝いは、私たち自身の復活に確固たる希望を持たない限り、意味を持たないのです。

三番目のステップは、**自信に満ちた未来への希望は現在の愛の人生につながる**ということです。もし私たちが永遠の幸福の中にキリストと共に生きようとするなら、私たちはキリストがこの地上で生活されてきたようにキリストと共に今を生きなければなりません。これが何を意味するのか私たちはよく理解しています。私たちはキリストが私たちのためにどのようなお手本を示してくださったかわかっています。無私、寛容であり、思いやりを持ち、神に熱心に祈りを捧げ、私たちの兄弟姉妹に献身的に尽くす、ということです。

イースターは過去、現在、そして未来です。キリストの御身体（聖体拝領）を頂くときに、私たちは過去のキリストのご復活のうちに信仰を強め、現在においてはキリストの命を生きるように強められ、そして未来においての私たち自身の復活を約束されるのです。イースターはまさしく私たちカトリックの信仰の偉大なお祝いなのです。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

目　次

☆	聖句	Ｊ．Ｐ．Ｓ．	・・・	1
☆	巻頭言	コンスルタ神父	・・・	2
☆	目次		・・・	3
☆	四旬節黙想会		・・・	4-6
☆	主に捧げる２４時間		・・・	7
☆	新年会		・・・	8-9
☆	日本二十六聖人巡礼	Ｓ．Ｋ．	・・・	10-11
☆	阪神淡路大震災 20 周年追悼ミサ		・・・	12-13
☆	阪神淡路大震災 20 年のあゆみ		・・・	14-17
☆	「新生の祈り」と「新生計画 20 周年振り返りシート」		・・・	18
☆	シリーズ　典礼についての講話Ｉ		・・・	19
☆	アマド神父様講話	Ｔ．Ｕ．	・・・	20-21
☆	図書コーナー　（サンパウロ）	阿部　真理	・・・	22
☆	（教会日誌・信徒動静）		・・・	(23)
☆	後記		・・・	23

題　字　Ｊ．Ｙ．
表紙画　Ｉ．Ｋ

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《四旬節黙想会》

2015・3・1（日）

指導司祭　松浦　信行神父
大阪教区かわちブロック担当

「懐かしいお顔にお会いできとても嬉しく思います。３１年前に叙階、最初の赴任地がこの住吉教会でした。当時の稲田主任司祭の下で学んだ最初の１年の経験は、私のそれからの３０年の司祭生活に大切な力を与えてくれました。このように一つ一つの経験を無駄にすることなく生き、次の人生を開いてゆくこの不思議さを、今日の３つの聖書から味わいたいと思います。四旬節の日々が豊かな実りのある日々となっていきますように。」

待ちわびた早春の喜びを私達の教会に運んでくださったかのように、にこやかな笑顔と聖堂いっぱいに響き渡る元気なお声でミサは始まりました。

【ミサ中のお話より】

小さな子供達にもわかるように、絵本の読み聞かせの中から聖書のお話をされる**「絵本神父」**は、聖堂最前列に並ぶ子供達によく見えるように絵本のページをめくり、元気いっぱいに話され、その言葉はいつのまにか昔の子供達の心にも語りかけられていました。

☆絵本「ガンピーさんの舟遊び」・・ガンピーさんの船に乗った皆は、勝手な行動で船がひっくり返る失敗を繰り返しながら、だんだん経験をつんでいき、気を付けて乗るようになる。このように一つ一つの時は失敗だらけでも、その経験が積み重なって何かが付け加わり、人間に智恵が与えられる。失敗してもしっかり生きるように。その失敗は必ず役にたつからと神様はいつも祝福をもって見守っていてくださるのです。

☆朝日新聞「2015・2・28（土）be 版　フロントランナー」・・珍しい植物を追い求めるフロントランナーのＮ氏が、富士山の高所のカラマツを切って持ち帰る時に樹海に迷い込み、九死に一生を得て助けられた時、そこでおまわりさんから「樹齢１００年もの木を何の為に一瞬の内に切ってしまったのか？」ととがめられた。何の為にという信念の無い行為、物事にあるルールをわきまえなかったという反省の内に得た気付きは、それからの彼の生き方を形作る力になり、以後の人生を大きく変えました。

この２つの話を基に四旬節第２日曜日の３つの聖書が語られました。

☆「第１朗読　創世紀」・・アブラハムは何故神の言葉にしたがったのか？
多分これまでの人生の中で、聖書には書かれていない危機があったのだろう。なんとか神によりたのみたい一心で、従来どおり大切なものを神に捧げるやり方にならい、モリヤの地に向かったのだろう。しかし犠牲として捧げた大切なイサクに手を掛ける寸前に神はストップをかけた。その時、「神こそ私達一人一人を生かす神なのだ。」と悟り、次の人生の一歩へと進んでいったのです。

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

☆「第２朗読　ローマ人への手紙」・・・自らキリスト者を迫害したパウロがなぜキリストに従っているのか。パウロの行いの良い悪い以上に、「パウロの命を認めようとした神が、パウロを呼んでくださった。」のではないか。この思いの下にパウロは「義とされるのは人間の判断ではなく、神こそが私達を良しとし続けて下さる。」と語るのです。

☆「第３朗読　マルコの福音」・・色の３原色　赤・青・黄を積み重ねると黒になる。光の３原色　赤・青・緑を積み重ねると白になる。「積み重ねた経験が人間をダメにしていくのではなく、積み重ねた経験が人間の心を豊かにしていく事こそ神の救いの技なのだ。」イエス自身の、過ぎ越しの神秘を経験した後の光の白を述べ伝えるように。神は私達一人一人に色ではなく、光に変わっていく豊かな可能性を注いで下さっている。四旬節の経験が積み重なって、私達の未来に向かって大切なものを創り出していくのです。

【黙想会より】

テーマ　神と親しくなる四旬節

神父様のやさしく元気な大きなお声でのお話の仕方は、こどもも大人も第一声から絵本の世界にすっと連れて行ってくれます。次のページはどんなかな？と待ち遠しくなります。そして独特のイントネーションで「おわり・・・」と言われた時には、どの絵本のお話にも神様がほっこりと微笑んで活躍しておられ、「私がいたのわかったかな？」と言っておられるような気がします。神様とすっかり友達になった気がします。

（以下 7 冊の絵本を読みながらお話下さいました。）

☆「幼稚園行くのいやや」

私達はいろんな出来事を頭で考え、信仰すらも頭で消化していくとしたら、一番土台の部分で神を見ることが出来ないようになるかもしれない。人と人は深い関わりを持っているからこそ厳しい現実を言いあっても受け入れあえる。私達も神との関わりの中で、厳しい時に心を頑なにして話を聞かなかったら、その信仰は偽りの神を拝むようになり、だんだん孤立化し孤独になっていくのではないか。

☆「おこだでませんように」

「早くしなさい」と先生におこられながら七夕さまに僕は一番のお願いを習ったばかりの字で書いた。じっと見て先生は泣いていた。「ごめんね、先生怒ってばかりやったんやね。」・・・マイナスだと思われている出来事が、ある時には私達の心の奥深くに神がたたずむのを見つける基になる時がある。四旬節は普段神を見るのとは違う角度から神を見出していく時でもあります。

☆「駅のおかあちゃん」

旭山動物園に小学校の命の授業で余った動物が持ち込まれた時、K園長は次のように言

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

って断られた。「命を育てる時には困難や大変な事もある。自分の都合の良い命だけで命の教育と言わないで。そうしたことを全て感じて命の教育と言って下さい。命の良いとこ取りをすると良いとこ取りの人間しかできません。」
厳しい日常生活の中で理想的な信仰を願うと、自分との違いに神から遠くなってしまう。神に素直に語りかけるのが難しくなる。良い時も悪い時も全体で人生なのだとわきまえて自分の中で消化した時に初めて見えてくるものがある。四旬節は神の命と私達一人一人の命とを深めていく時。私達を追い込む四旬節ではなく光を、なんらかの変化する時を待つ四旬節であってほしい。

☆「ともだち」

　ながい時間をかけて人生は積み上げられていく。たとえちょっとした食い違いがあっても、教会に来て同じ方向をむいて祈ろうとしている、共通の長い時間をかけながら一緒にいるというこの積み重ねの時間は、私達の回心の中で大きな力をもっている。大きな土台の中で起こるちょっとした摩擦に心囚われるのではなく、大きな土台に神の祝福を求めなさい。

☆「皇帝にもらった花の種」

　一人の人生を見る時、結果や成し遂げた事を見ながら判断しがちだが、花は咲かないかもしれないが、コツコツと誠実に人生を送り続けた過程を見届けるのが神の不思議さ。
思うように出来ない自分を神に捧げる祈りもある。結果ではなく一瞬一瞬どのように神に係ったかが大事になる。捧げるという気持ちの中で神と結びついていきます。

☆「そしてふたりはにっこりした」

　人間が社会的な道具だと言われるとしたら、人から認められないと生きて行けない。
ウガンダの難民キャンプで働いていたＫ司教が日本に帰る時、援助は何が必要かと尋ねた。「私達に援助物資は何もいらない。ただ地球の片隅で苦労しながら一生懸命生きている人達がいるという事を覚えていて伝えて欲しい。それが生きる力になります。」と言われた。人間は人から意識されて生きる。霊的に生きるのも神から意識されていると感じる時。
ゆるしの秘跡の一番大切なポイントは、「私は罪深くて神から遠い」と思い込んでしまう私を神が意識して下さっている、ゆるしの場に行けば「あなたをしっかりと見つめています」と神が意識して下さっている、と知る心。これが私達が霊的に生きる力になるのです。

☆「あさになったのでまどをあけますよ」

　繰り返しは子供に大変大きな力を与える。一回すれば終わり一回見れば終わりではなく、好きな物、自分の心に響く物は何度も繰り返し見聞きし頭の世界から心の世界へとほり下げている。子供は繰り返す内に今必要な物を心の奥に留めたいと思っている。四旬節は、毎年同じような事を繰り返しているようだが、毎年味わいながら深めているのです。

（黙想会のＣＤ・ＤＶＤはホールのトレー棚上に並んだケースの中にあり、教会ＨＰのニュース欄にも掲載されています）編集部

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《主に捧げる 24 時間》

教皇フランシスコは四旬節メッセージの中で全世界の教会に「主に捧げる 24 時間」を呼びかけられました。

「わたしたちは、一個人としても無関心になりがちです。人々の苦しみを伝える報道や衝撃的な映像が氾濫する中、わたしたちは自分には何も出来ないと感じてしまいます。こうした憂いと無力感の連鎖に捕らわれないためには、どうしたらよいでしょうか。
まず、最初に、わたしたちは、地上の教会と天上の教会の交わりのうちに祈ることができます。祈りのうちに結ばれた多く人々の声の力を軽んじてはなりません。こうした祈りの必要性の表れとして、わたしは、3 月 13 日から 14 日の間に『主にささげる 24 時間』という取り組みが教会全体、そして教区レベルで行 われるよう望みます。」　　四旬節メッセージ『心を固く保ちなさい（ヤコブ 5・8)』より抜粋

これに応えて住吉教会でも 3 月 14 日 16 時 30 分から 18 時にかけて「告解と祈りの時間」が持たれ、聖体顕示式（ベネディクション）、赦しの秘跡、ミサが行われました。
日々の生活の忙しさから離れ、
心を神様に向ける・・回心へと向かう
静かな祈りの時間を持つことができました。

聖体顕示式（ベネディクション）

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《2015・新年会》

１月２５日住吉教会恒例の新年会が開催されました。
今年は多数の方が参加しやすいようにと、ミサの後に
ビュッフェ形式での催しとなりました。

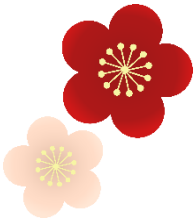
傘木神父様のお祈りと乾杯の合図の後に心づくしのごちそうを囲んで和やかで温かなひと時を過ごしました。

神戸中央教会からも５名の方がいらしてくださいました。

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

住吉教会が主の望まれる
ような教会への道を歩むことが
できますように。
この１年も私たちを守り導いて
くださいますように。

新年会は信徒の交流の場。どなたでも大歓迎です！
これまで参加したことがないという方もぜひ一度お気軽にいらしてください。
共に集い、食卓を囲み、親睦を図りましょう！



Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪日本二十六聖人巡礼≫

S. K.

2 月 11 日、関西フランシスカン主催の日本二十六聖人巡礼に住吉教会から 5 人が参加しました。今年は堺市内を巡りました。33 年前からこの巡礼を推進してこられたルカ・ホルスティンク神父も転任先の佐久教会から参加されました。

1596 年聖パウロ三木を始め二十四人のキリシタンが京都や大坂で捕縛され京都で片耳をそがれ、都の町中を引き回され大坂を経て堺へと送られました。堺でも町中を引き回された後、沙汰待ちのために寺に逗留しました。二日後に堺の奉行所に豊臣秀吉の命令で「全員死罪、長崎で磔刑（はりつけ）」の告が掲げられました。そして長崎への受難の旅が始まり途中でさらに二人が加わって二十六人が長崎で十字架にはりつけられ殉教しました。

南海本線堺駅に 150 名余りが集まり、巡礼に先立って「フランシスコ平和の祈り」を唱えました。駅前から掘割に沿ってザビエル公園に。堺に上陸した聖フランシスコ・ザビエルが滞在した日比屋了慶邸跡の記念碑があり、碑文には「西洋文明伝来の始」とあります。キリシタン時代を偲んで当時の言葉で主の祈りを唱え、今日の巡礼の無事を祈りました。

ここから紀州街道を少し北に進んだところがキリシタン大名小西行長の屋敷跡で石碑と説明板があります。

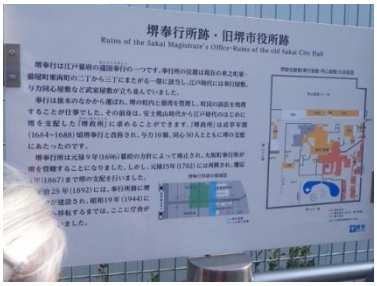
二十四聖人が堺で逗留した場所は記録から寺と言う以外に分からないのですが、人数と収容できる寺の大きさから西本願寺堺別院と見られています。

西本願寺堺別院を出てすぐの所に本受寺という寺があり、ここはキリシタン西ルイスの屋敷跡で奥の庭にキリシタン灯篭があります。灯篭の真中が太いのは十字架を模し、灯篭の下部にはマリアと思われる像が刻まれていると言われます。

二十四聖人逗留地のもうひとつの候補である妙国寺は斜め向かいにあります。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.



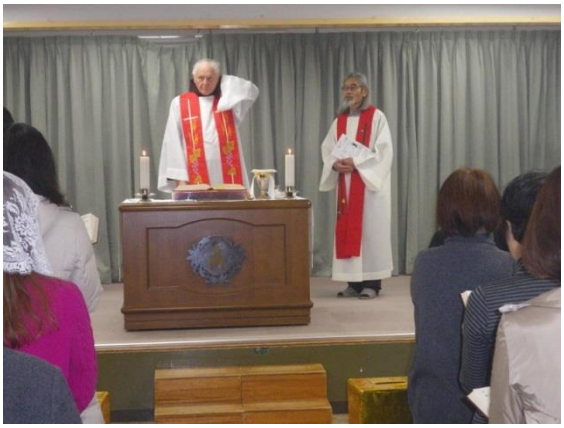
そこから南に進んで殿馬場（とのばば）中学校の前に堺奉行所跡の案内板があります。二十四聖人に対する死罪の沙汰が掲示されたところです。

さらに南に進んで、菅原神社には小西行長の唐松、開口神社にはクルス（十字架）紋の手水鉢があります。

堺の町の中心を東西に貫く旧竹内街道（現在の大小路筋）は古代から摂津と和泉の国の境で、二十四聖人の堺引き回しの時も間違いなく通った道と考えられています。

堺市役所 21 階の展望台で休憩しました。地元の案内ボランティアの方から仁徳天皇陵はじめ 360 度の展望の説明をしていただきました。

今日の巡礼の締めくくりは、花田口聖母幼稚園における感謝ミサでルカ神父と堺教会の村田神父の司式で捧げられました。ミサの中で第一朗読は、聖トマス小崎の手紙が堺教会の方によって朗読されました。ミサの後、茶話会で参加者の皆さんと歓談し感謝の内に今日の巡礼を終わりました。ルカ神父、関西フランシスカン、堺教会の皆さま、花田口聖母幼稚園のシスター方、今回の巡礼を準備して下さったスタッフの皆さま、ありがとうございました。



関西フランシスカン主催の日本二十六聖人巡礼は 1983 年から毎年 2 月 11 日に京都から姫路までの区間を順次たどり、今年は 3 巡目で堺まで来て締めくくりとなりました。来年以降も主催者を変えて続けられる見込みです。(編集部)

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪阪神淡路大震災２０周年追悼ミサ≫

於：神戸中央教会　１月１７日（土）

阪神淡路大震災から 20 年目となる 1 月 17 日、午前 5 時 46 分からの追悼の祈りに続き、午前 11 時から大阪大司教区主催「阪神淡路大震災 20 周年追悼ミサ」が、神戸中央教会で前田万葉大司教司式により行われました。追悼ミサには神戸地区司祭、多数の信徒が集まり、6434 名の震災犠牲者や復興の谷間に残された人々のために祈りが捧げられました。

ミサの中で前田大司教は「正月に生きる命や二十年」の句に託し、この 20 年を大きな悲しみ、大変な思いのうちに過ごされた方々へ思いを馳せられました。体験した人にしか分からない苦しみの日々に、心から大変でしたねと申し上げたいと言われました。

人はいろいろな体験を通してかたち作られるといわれますが、自身の大きな悲しみ、また人の痛みに寄り添う経験が、優しい人を育てると信じています。なぜこんな悲惨なことが起こるのかと感じることがあるでしょうが、「私は道であり、真理であり、いのちである」というキリストの言葉を胸に、将来に向かって強く大きく生きて行ってほしいと願われました。

ミサ後は中庭で、震災を機に作られた社会活動センターによる温かい豚汁とおにぎりの炊き出しがありました。震災後、たくさんの方々がボランティアで来て下さり、冬の寒空の下、温かい食事を準備してくださったことが、懐かしく有難く思い出されました。

引き続き午後 3 時からは、聖堂でテレマンアンサンブルのチャリティコンサートが行われました。池長大司教司式のミサと共に祈りのうちに捧げられたフォーレのレクイエムの演奏は素晴らしく、私たちの心に深く響きました。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

≪阪神淡路大震災追悼ミサ≫

於：住吉教会　1 月 18 日（日）

U議長からミサの始めに

昨日 1 月 17 日は阪神淡路大震災から丁度 20 周年の日でした。本来なら住吉教会で追悼ミサを捧げる予定でしたが、17 日に大阪教区の追悼ミサが神戸中央教会で行われたため、住吉教会では今日の年間第 2 主日のミサを、特に阪神淡路大震災で亡くなられたすべての方のために捧げることになりました。住吉教会では、マリアアンナ Ｅ．Ｔ．さん、マグダレナ・ソフィア・バラ Ａ．Ｔ．さん、志願者　Ｍ．Ｔ．さんが召されました。ご家族と共に心を一つにして祈りましょう。黙祷。

ブラッドリー神父様のお話

昨日は朝早くから大勢の人々が 20 年前を思い、震災で亡くなった方々、トラウマを抱え今も苦しむ人々のために祈りました。そして大阪教区では 20 年の節目にあたり、前田万葉大司教が「2015 年 新生計画 20 周年メッセージ」を出されました。それは私たちがこの 20 年を振り返り、新たな歩みを作り出すためです。未年にあやかり謙虚に、そして素直に根気強く取り組んで行きたいと思います。

新生計画 20 周年メッセージの説明

原点となる体験

・教会が地域社会に対して扉を閉ざしていたという現実
・多くのボランティアが教会に集まった
・周囲の現実と向き合い教会が扉を開くことにより、教会が生き生きとしてきた

新生の歩みの評価

・気づかなかったものが見えてきた　　ex 支援の谷間に置かれる野宿者や外国人
・教会の中での交わりにも変化があった　　ex 司祭・修道者・信徒の共同宣教司牧
・新しい動きに対して疑問もある　　ex 協働する教会・政治へのかかわり方など

チャレンジ

・教区新生計画の再確認、再調整、見直し
・キリストの十字架と復活に生きる教会として、
　悔い改め続ける教区を目指す
・バランスの取れた司牧活動を行う

共同祈願では 「阪神淡路大震災 20 周年にあたり祈ります。この震災で亡くなられたすべての方に、神の前で永遠の安息が与えられますように。また、20 年経った今でもさまざまな苦しみを抱えている方が一日も早く安心して暮らせるようになりますように。」という祈りを捧げました。

震災 20 年の節目にあたり、私たちが悲しい過去から何を学び、それを将来へどのように生かすことができるか・・・今年の大きな課題です。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《阪神淡路大震災 20 年のあゆみ》

		教会のできごと	✤主任司祭 信徒会長 / 幼稚園長
1995年	1/17	午前5時46分　阪神淡路大震災発生 司祭館・幼稚園ホール全壊　教会関係者3名帰天	✤ Fr.生藤、Fr.諏訪 K.H.
	1/22	主日のミサに12～3名集う	Sr.エステル、Sr.熊谷
	1/27	司祭館解体作業開始、安否確認、相互連絡、救援物資活動開始	
	5月	週報No.1発行（のちに「風」となる）	
	7月	安田大司教ミサ、新生トーク第1回がふれあい広場で開催される	
	11月	ふれあいフェスタ（バザー改名）開催	
	★	大阪新生計画発表・共同宣教司牧発足・西宮司教館売却	

震災で壊れたルルドのマリア様

1996年	★	チーム制発足・・　新生・研修・福祉・司牧・営繕・広報・財務 典礼・青年・中高生会・ヨセフ会・婦人会	✤ Fr.諏訪 K.H.
	10月	池長大司教を迎え、新生についてパネルディスカッション	Sr.熊谷、Sr.山口
	〃	セニョール・デ・ロス・ミラグロス始まる	
1997年	2月	26聖人殉教400年記念に月桂樹6本植樹	✤ Fr.諏訪、Fr.矢野 K.H / N.K.
	★	新聖堂建設についてのディスカッションが始まる	
	★	安田大司教退任	
	10月	ペルーのシプリアーニ大司教来訪	
1998年	★	聖堂補修作業再開	✤ Fr.矢野 N.K.
	★	婦人会遠足　大山崎山荘美術館	Sr.山口
1999年	1月	キリスト教おさらい会始まる	✤ Fr.矢野 N.K / T.Y.
	★	婦人会制度が終了し、ABCD地区ブロック活動に移行	Sr.山口
	★	神戸の冬を支える会　参加開始	
	★	松浦悟郎補佐司教叙階　　神戸中央教会発足	
	11月	Fr.ベロー　金祝、Fr.松本武三　銀祝	
2000年	1月	大阪大司教区大聖年開幕ミサ	✤ Fr.矢野 T.K.
	2月	池長大司教による堅信式（17名）	Sr.山口、Sr.金松
	7月	初のバーベキュー大会	
	9月	第1回シルバー大会（於:英知大学）	

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

教会のできごと

✤主任司祭 ✚担当司祭
信徒会長 / 幼稚園長

2001年

3月	D地区主催バスツアー　大塚国際美術館へ	✤ Fr.矢野
5月	神戸聖書展（於:そごう）	T.K/H.Y
6月	26聖人の歩いた旧西国街道の歴史を学び歩く	Sr.金松
★	女性の集いで「神の国をめざして」を初金ミサ後、ともに読む	

2002年

3月	Fr.ジョージ　最後のミサ後、インドへ帰国	✤ Fr.矢野　共同宣教司牧
7月	日本カトリック医師会訪問例会　テーマ「終末医療と尊厳死」	✚ Fr.最頼、Fr.諏訪
10月	松浦悟郎司教による東ブロック合同堅信式（9名）	✚ Fr.マリオ
11月	D地区主催バスツアー　三田教会、キリンビール工場ほか	H.Y.
★	神戸中央・住吉　共同司牧となる	Sr.金松

2003年

5月	聖書100週間勉強会始まる（3クラス）	✚ Fr.諏訪、Fr.マリオ
6月	東ブロック合同ミサと茶話会（於:カナディアンアカデミー）	✚ Fr.パウロ
7月	日本カトリック障害者連絡協議会全国大会（於:大阪カテドラル）	H.Y.
★	信徒会長から信徒代表へ改名	Sr.金松

2004年

2月	住吉教会へ泥棒侵入	✚ Fr.諏訪、Fr.パウロ
4月	聖堂お別れミサ　ミサ後ご聖体を三木館へ安置	✚ Fr.シリロ
5月	新聖堂地鎮祭、旧建物順次解体、樹木一部伐採	H.Y.
6月	十字架、聖マリア像、聖パウロ三木像を教区倉庫へ	Sr.金松
7月	幼稚園教室でのミサが始まる	
〃	カトリック入門講座始まる	
10月	神戸中央教会献堂式	

旧聖堂外観

お別れミサ

解体風景

2005年

1/16	震災10年　新生の日祈念ミサ（於:神戸中央教会）	✚ Fr.諏訪、Fr.パウロ
1/17	午前5時46分より　震災10周年追悼ミサ（於:住吉教会）	✚ Fr.シリロ
3月	新幼稚園竣工、新聖堂建設開始	H.Y.
4月	新幼稚園教室でのミサ始まる	Sr.金松
7月	教会学校キャンプ(甲山自然の家)青年チームキャンプ（能勢）	
★★	教皇ヨハネパウロ２世逝去、教皇ベネディクト１６世選出	

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.
目次

教会のできごと

✚担当司祭◇協力司祭
信徒代表 / 幼稚園長

2006年

1/22	松浦司教来訪　司式ミサのち分かち合い	✚ Fr.パウロ、Fr.シリロ
6/11	幼稚園教室でのミサ最終回	T.U.
6/17	住吉教会新聖堂竣工式・献堂式	松谷馨子
	池長大司教・来賓司祭合同ミサのち祝賀パーティー	
7月	教会学校キャンプ（甲山自然の家）中高生キャンプ（赤穂教会）	
9月	青年合宿（倉敷教会）	
11月	研修・養成プログラム始まる	

2007年

1/17	教区新生のミサ（教皇庁大使、池長大司教　於：神戸中央）	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ
2月	日本２６聖人殉教者・聖パウロ三木像祝別　　新ルルド祝別	◇ Fr.オマリー
3/2	阪神地区エキュメニズム世界祈祷集会	T.U.
4/15	Fr.パウロスペインへ、　Fr.フェリックス歓送迎会	松谷馨子
7/1	Fr.赤波江住吉ご着任初ミサ	
7月	教会学校キャンプ（六甲自然の家）中央・住吉青少年キャンプ(住吉)	
10/30	ミサ中　故Fr.稲田豊帰天50日祭	

2008年

1/13	教区新生の日・ミサ中新成人の祝福　2名	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ
6月	第1回家庭集会A地区から開催	◇ Fr.オマリー
7月	教会学校キャンプ(明石自然の家)青年学生チームキャンプ(住吉)	T.U.
8月	神戸地区平和旬間行事「平和の集い」(住吉)	松谷馨子
11/3	鶴島巡礼	
１１月	ペトロ岐部と１８７殉教者列福式（長崎）	

2009年

５月	東ブロック合同堅信式（住吉教会から１０名）	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ
８月	教会学校キャンプ(甲山)/中高生会 広島、山口、津和野へ巡礼	◇ Fr.オマリー
12月	ペトロ　白柳誠一枢機卿　帰天	T.K.
		松谷馨子

2010年

1/17	震災１５周年祈念巡礼ウォーク（住吉教会～神戸中央教会）	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ
４月	住吉教会創立７５周年	◇ Fr.オマリー
8月	教会学校キャンプ（六甲自然の家）/中高生会　長崎巡礼	T.K.
11月	住吉教会　第1回茶話会　開催	松谷馨子

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.
目次

		教会のできごと	✚担当司祭◇協力司祭 信徒代表 / 幼稚園長
2011年	３月	東日本大震災発生 池長大司教から被災者への祈り、募金、支援の呼びかけ	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ ◇ Fr.オマリー
	５月	東ブロック合同堅信式（住吉教会から７名）	T.K.
	６月	Fr.諏訪 司教叙階式（於：高松桜町教会　住吉教会から12名列席）	松谷　馨子
	7/8月	教会学校キャンプ（明石自然の家）/中高生会キャンプ（網野教会）	
	11月	待降節第１主日　池長大司教住吉教会司牧訪問	

2012年	２月	日本26聖人列聖150周年記念ミサ（ミサ後、有志で聖劇上演）	✚ Fr.赤波江、Fr.シリロ
	３月	Fr.オマリー 金祝	✚ Fr.コンスルタ
	４月	Fr.シリロ 金祝　　日本での44年間の宣教を終え、スペインに帰国 ベトナムのマン枢機卿が住吉教会を訪問	◇ Fr.オマリー A.T.
	５月	ベロー神父様送別会	松谷　馨子
	〃	松浦悟郎司教　住吉教会司牧訪問	
	６月	26聖人巡礼バス旅行	
	7月	教会学校キャンプ(江井ヶ島）/中高生会は住吉教会でキャンプ	

懐かしい司祭館で執務中のベロー神父様

2013年	★★	教皇ベネディクト16世　退位　　３月教皇フランシスコ選出	✚ Fr.赤波江、Fr.コンスルタ
	２月	聖パウロ三木を祝うミサ。 ミサ後、２６聖人の映画鑑賞	◇ Fr.オマリー
	〃	第１回　終末期を考える集い	A.T.
	5月	神戸東ブロック合同堅信式(住吉から6名）	松谷　馨子
	6月	第2回終末期を考える集い	
	7/8月	教会学校キャンプ(甲山自然の家)/中高生巡礼(大分修道院、他）	
	9月	第3終末期を考える集い	
	10月	池長大司教　住吉教会司牧訪問	

2014年	３月	Fr.赤波江　銀祝感謝ミサ	✚ Fr.赤波江、Fr.コンスルタ
	５月	Fr.赤波江　お別れミサ	✚ Fr.ブラッドリー
	６月	松浦悟郎司教　住吉教会を司牧訪問	◇ Fr.オマリー、Fr.傘木
	７月	Fr.ブラッドリー着任後初ミサ　教会学校ディキャンプ(青少年科学館)	T.U.
	８月	福島の子供たちと「ふっこうのかけ橋プロジェクト」開催	松谷　馨子
	９月	前田万葉大司教　着座式（於：明星学園）	
	１０月	甲山墓苑　納骨式	

2015年	1月	阪神淡路大震災２０周年追悼ミサ（神戸中央および住吉教会）	✚ Fr.ブラッドリー
	２月	ユスト高山右近　帰天４００年記念ミサ（於：神戸文化ホール）	✚ Fr.コンスルタ ◇ Fr.オマリー、Fr.傘木 T.U. 松谷　馨子

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

目次

《「新生の祈り」と「新生計画２０周年振り返りシート」》

大阪教区　新生計画２０周年企画チームより「新生の祈り」のカードと「新生計画 20 周年振り返りシート」が住吉教会にも届きました。4 月 19 日の小教区総会前に資料として配布予定です。

新生計画二〇年の祈り

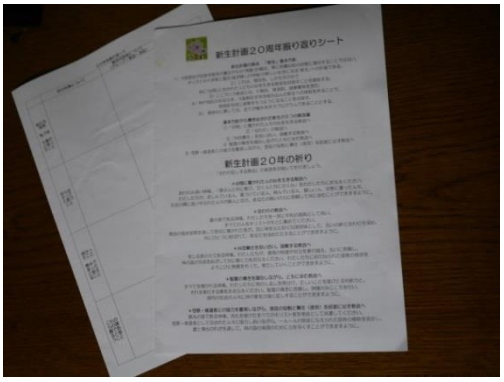
「交わり証しする教会」の実現を目指して祈りましょう。

＊谷間に置かれた人の心を生きる教会へ
あわれみ深い神様、泣く人と共に泣く心」を
喜び、泣く人と共に喜ぶ
おにいさん。
病気の人、苦しみ、傷ついている人、
わたくしたちに与えられた人、貧しい人、災害に遭った人々、
ともに歩む教会へ
社会の隅にいる人々、
なるべく共に歩むことができますように
救いの力に信頼し、
追いやられた人々の隣人となり、
あなたの道を歩もうとする私たちを、いつも励まし、
＊交わりの教会へ
愛の源である神様、わたしたちを一致と平和の道具として用い、
すべての人を集めてくださいます。
教会宣教をキリストの
同じ神を信じ、
福音を通して、
父と仰ぐ
兄弟姉妹と
つながれて、
共にひとつとなって、
互いの絆と交わりを深め、
できますように。
＊共同責任を担い合い、協働する教会へ
信じる者の力、
意見や対立を越え、
神の国の相違を超え、
共に成長し、
共に働く力をお与えください。
＊聖霊の導きを識別しながら、
正しくすべてを導かれる神様、
そのことを実行する勇気をお与えください。
聖霊の導きに信頼し、
代々の神様のみこころを行い、
証しする社会の人々に神の愛を力強く
ことができますように。
＊司祭・修道者との協力を重視しながら、
恵みの源である神様、
使徒たちを遣わされ、
司祭・修道者と召された人々と協力しあいながら、
一人一人の信徒に与えられた固有の賜物を活かし、
愛を通して、神の国の実現のために、
幸せを尽くすこの仕事を通して、
力をとおしてできますように。

新生の祈り

私たちと共にいて下さる父である神よ、
阪神淡路の大震災によって、
あなたに向かって新たに生きる決意をした
大阪教区の二〇年を祝福して下さり、感謝いたします。
あなたが模範を示した、まなざしの谷間を探し出す歩みが
孤立させられた人々の救いとなりますように。
感謝の祭儀への交わりが、
一人一人が、神の国を作り出すみなもとである神の期待を、
深く味わえますように。
現実をじっくりと見つめる中に、
聖霊の導きを見いだす力が与えられますように。
多様性の喜びとなりますように。
持つ、さまざまな違いを認め合えることが、
あなたの道を歩もうとする私たちを、いつも励まし、
力づけ、慰め、喜びを与えて下さる
主、イエス・キリストによってこの祈りを捧げます。
▲アーメン。
（大阪大司教認可）

振り返りシートは、この 20 年間、個人・共同体がどんな歩みをしてきたかをダイナミックメモリーという黙想の手法を使って振り返り、書き込めるようになっています。そしてそのことは、それぞれの共同体の未来を考えることにつながると思います。



Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.
目次

シリーズ　　≪　典礼についての講話　Ⅰ　≫

２０１５年２月１日

２月第一主日のミサ後、ブラッドリー神父が住吉教会の信徒のために典礼についてのお話をしてくださいました。

第一回目のこの日はミサについてのお話でした。

「ミサ」の語源はラテン語で解散、派遣を意味する missa にあるとされ、祭儀の終わりの「イテ、ミサ、エスト」（行きなさい、派遣の時です）に因んで用いられるようになったと言われています。

私たちがいつも与るミサはキリストが最後の晩餐で、「私の記念としてこのように行いなさい」と弟子たちに命じられた祭儀にその起源があること、その最後の晩餐はユダヤ人の過越の食事の色彩を帯びていたそうです。また、「感謝の祭儀」と言われる所以は、過越の食事の際、ユダヤ人の一家の父親が神の救いの技をたたえて捧げた感謝の祈りにあるということです。過越の食事とは、ユダヤ人がエジプトを脱出するその夜にいけにえとして屠られた子羊の血と肉を使って行われた出来事を記念する食事です。

私たちが日々与るミサについて、その起源、意味するもの、背景などをスライドを使ってとてもわかりやすくお話してくださったブラッドリー神父の典礼講話はこれからも続きます。典礼についての理解を深めるだけではなく、私たちが知っているようで知らないことも教えていただける素晴らしい機会です。

今回参加できなかったみなさんも、お時間のあるときは是非参加されてはいかがでしょうか。

（編集部）

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.
目次

《アマド神父様講演会》

『フィリピンの教会』とミサに参加して

T.U.

2 月 11 日 13 時から神戸中央教会において、聖ビンセンシオの宣教会　アマド神父様の講演会とミサが開催されました。講演会、ミサとも日本語、英語、タガログ語の三つの言語で聖堂後ろのテーブルにはフィリピンで作られた様々な品物が展示されていました。

神父様は 11 年前の 2003 年 8 月 30 日に来日されました。
フィリピンは関空からマニラまで飛行機で、約 4 時間、時差は 1 時間です。神父様のご家族はマニラ在住とのことでした。フィリピンの果実はバナナ、マンゴー、パイナップルが日本のりんご、梅、苺に当たります。フィリピンの主な乗り物はジープニーで、日本の電車にあたります。

（1）フィリピンの教会

人口の 85%がキリスト信者（信徒数は世界で 5 番目）、カトリック信者は世界で 3 番目の多さです。教会共同体のコミュニティがあり、小さな共同体としてコミュニオン、神の民が有ります。定期的な集まりで、持っているものを分け合うグループ、カリスティックグループ、エル・シャーダイなどがあります。
会社やデパートでも礼拝が行われ、聖堂のある会社もあるそうです。
今年 1 月のフランシスコ教皇のフィリピン訪問には約 6 万人の信徒が集まりました。
感謝の祭儀は午前 5 時から 20 時まで祈り、ゆるしの秘跡が行われ、毎週水曜日にはノヴェナを唱えます。(Novena 9 日間連続の祈り)
フィリピンで有名な信仰行事
・ナザレノ：毎年 1 月 9 日に裸足で行われる大行進
・シンバング・ガビ：Simbang Gabi クリスマスに向けての早朝ミサ

神様の前で司教も司祭も信徒も洗礼において皆等しいメンバーですキリストの司祭職、預言職、王職の各々の使命を果たします。
現代社会憲章：現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみについて表わします。

（2）フィリピンの抱える問題

・政府の無責任、堕落による貧困
・家族をフィリピンに残しお母さんも外国に出稼ぎに行く現実が、信徒に悪い影響を与えること
・移住労働者からの送金が便利な生活をもたらし、召命が減少すること
・国の社会的変化が遅く、正義と平和への社会的責任が遅れていること
・環境問題

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

（3）フランシスコ教皇の教会

第一：私は教会を野戦病院と見ています。

（シノドスの集まり、ローマにおける Sr 方の集まり）

第二：教会は善人のためだけではなく、罪人のための家でもあります。

第三：傷ついた教会、奉仕する教会。教会は母親です。

道に出て傷つき、汚くなった教会の方が好きです。中心に居ることばかりに気を配る教会は好きではありません。傷ついた教会は奉仕する教会で群れを大事にする羊のにおいのする羊飼いです。

（4）日本のカトリック教会について

第一：高齢化、出生率の低下

第二：信者は中高年層

第三：若者は仕事や勉学が中心

第四：修道会に所属する人々の減少。特にエネルギーがなくなっています。

第五：日本の教育制度（受験戦争?）は子供たちの信仰教育を支えません。

解決策として

子供たちへの活動を導入し、リーダーの養成に力を入れること。

信徒のリーダーと司祭とシスターの交わり：共同宣教司牧を強調なさいました。

司教団、司祭、信徒は外国人を歓迎します。外国からの信徒は熱心です。

教会はミッショナリーとして心でもてなす

外国人に対して寛大

誠実でひたむきに、一途な心で成し遂げる

お返しを求めず、奉仕を提供

人を幸せにするホスピタリティー

心の柔軟性が必要（フレクシビリティー）

最後にこのような逸話で「私たちが信仰を生き抜くためには、私たちのキリスト共同体が必要だ」と説かれました。

寒い寒い冬、山嵐が仲間の針を受け容れ生き延びるか？一匹ずつになって凍えて死んでしまうか？　彼等は他の者から得る暖かさによって生きるのです。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《図　書　紹　介》

ヨゼフ　阿部真理（聖パウロ修道会）

1、『人物中心の日本カトリック史』

サンパウロ刊　池田敏雄著（聖パウロ会司祭）

本書は、昭和 42 年に『人物による日本カトリック教会史』というタイトルで出版されたもので、長い間品切れになっていたものの新装版である。もう十五年以上前に出版された本であるが、それほど貴重な本として再版されたのであろうと思われる。

今回、私が取り上げようとしたのは、この本が、カトリックの教会史の事を知るのみならず、今のカトリック教会が、宣教師を含め、どのような素晴らしい人たちで成長していったかが実によくわかるからである。単に歴史というと、年月日とか、史実とか、数字にこだわってしまいがちである。が、この本は、まさに「人物による」というように、彼らの宣教、その生涯、神の恵みに彼らがどのように応えていったかが、実によく描かれている。そしてこの本は、そのまま聖人伝、霊的読書、人生の道案内とすべく私たちの道しるべとなって私たちに語りかけてくれる。

目次から、たくさん登場する人物を数人、上げてみよう。

キリシタン創立時代の聖フランシスコ・ザビエルに始まり、キリシタン受難時代の日本 26 聖殉教者、高山右近、ペトロ・カスイ岐部。キリシタン復活時代から明治にかけて、プチジャン司教、高木仙右衛門、ドロ神父、ビリオン神父。大正昭和に入り、ラゲ神父、ルイ・ルラーブ神父、カディヤック神父、そして、ブスケ神父、チマッチ神父、岩下壮一神父。戦後の、永井隆、北原怜子と、読者が耳にしたことが一度ならずともあるような素晴らしい人物が並ぶ。

ぜひ、この本を一度手に取られゆっくり読まれることをお勧めしたい。日本信徒発見 150 年を今年の 3 月 17 日に迎え、彼らの生き方に、現代に生きる教会、そして私たちの生き方を照らし合わせ、大切な遺産として、彼らの模範をしっかりと学んでいきたいものである。

2、カトリック聖書注解『マルコによる福音書』

サンパウロ刊　メアリー・ヒーリー著　田中昇訳　湯浅俊治監修

本書は、2014 年 12 月に発売されたばかりである。パッと見るとページ数 450 頁超、びっしりと文章があって…、というとなかなか手に取りにくい本と思われるが、今、聖書をしっかり勉強しようという方には、実にタイムリーな本である。それは、今年の教会の暦はＢ年、ちょうど、マルコの年なのである。『マルコの福音書を読むとき、読者は、あふれる喜びと共に感動を体験します。まさしく、マルコ福音書は、十字架につけられ、死から復活した神の子イエス・キリストの良き知らせで満ち溢れているのです。』（本書・はじめに～より）

この本の特徴は、一言でいうと、解説書。学術書ではなく、読者が勉強するための「道しるべ」だ。各章では、概説・エピソード解釈・参照すべき聖書箇所・カテキズム・キーワード解説・福音書全体のなかの位置づけ・歴史的背景・教会の伝承・教義や典礼といった具合に、わかりやすく解説されている。マルコの福音書を一冊でしっかり解説しているこの本を、ぜひお勧めしたい。

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.

《後　記》

イースターおめでとうございます。

今年は阪神淡路大震災から２０年、多くの方が言い表せぬ困難をくぐり抜けてこられたこととお察しいたします。あの２か月後に生まれた次男は今年成人式を迎えました。走り抜けてきたこの２０年を振り返り、あらためて神様の大きなお恵みに生かされてきたことに気付かされます。そのお恵みに心から感謝しつつ、犠牲になられた方々の永遠の魂の安らぎを願いお祈り申し上げます。

（A.S.）

復活祭おめでとうございます。

広報チームリーダーのお仕事を私達の世代が引き継ぐことになって一年が経ちます。諸先輩方・歴代の広報リーダーの方々が教会のためにいかにたくさんのことをなさっていらしたかと、ただただ驚く一年でもありました。

チームメンバーの中にあって何もできず助けていただくばかりの、「名ばかりリーダー」なのですが、評議会やホームページ委員会に出席する機会も増え、教会の広報とは・・、福音宣教とは・・と考え込むことが多くなっておりました。

そんな時にある聖書の勉強会で神父様がヨブ記で「福音宣教とは、神学の正しさを語ることではなく、その人に寄り添うこと」というお話をされ、標をいただいた気がいたしました。

「寄り添う」気持ちを大切に、できることから少しずつがんばって行きたいと思います。よろしくお願いいたします。

（H.H.）

教会案内

ミサ		
主日ミサ	日曜日	9:30
	第１・第３土曜日 スペイン語	19:00
週日ミサ	火・金曜日	9:30
講座		
信仰講座（Fr. 傘木）	第２・第４日曜日	10:45
信仰の分かち合い	第２・第４日曜日	11:00
聖書研究	Fr. 傘木ミサ担当金曜日	10:00
教会学校	第１・第３土曜日 対象：小学校１年生～６年生	14:00~16:00
評議会	第３日曜日	11:00
野宿者支援炊出し	第１土曜日	9:30 住吉教会集合

「すみよし」第 195 号

発行日	2015 年４月５日
発行責任者	ブラッドリー神父/コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380

http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp

目次

Copyright © 2015 Sumiyoshi Catholic Church, All rights reserved.